



京都市立美術工芸高等学校

令和9年度
入学者向け
学校案内

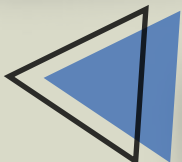
KYOTO CITY

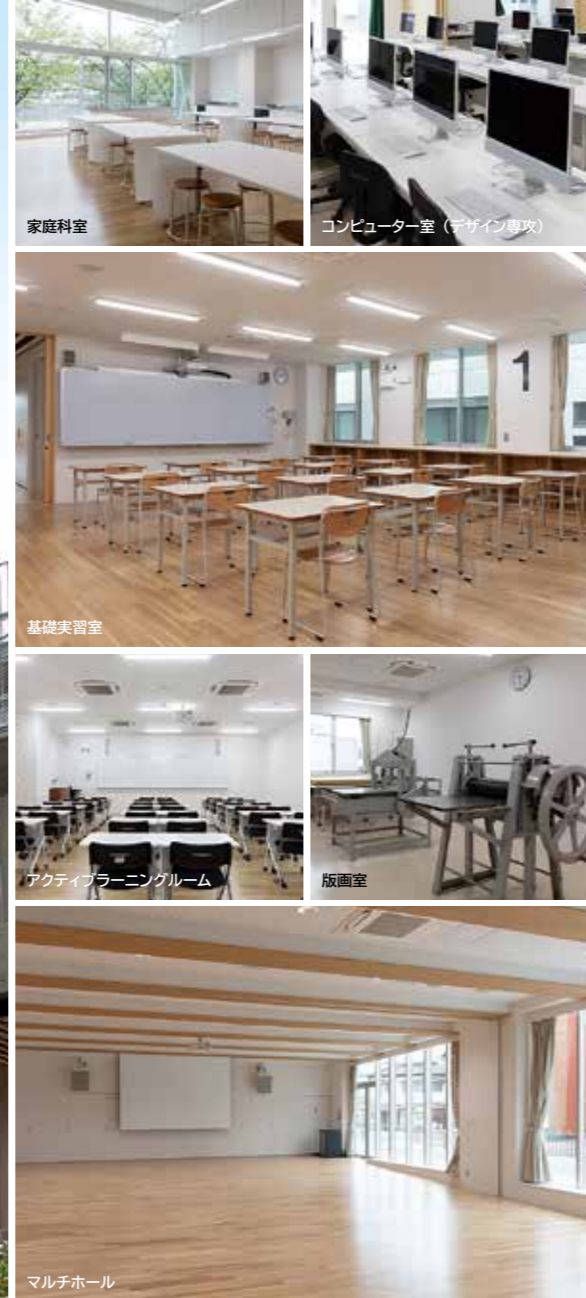
SENIOR HIGH SCHOOL OF ART

GENERAL INFORMATION

2027

その「ちくちく」が、
ありがたい未来を
ソウゾウする。





学校教育理念

自由快活な校風のもとで 多様性を尊重し共に高め合い 美の精神をもって 広く社会に貢献できる 高い理想をもった創造性豊かな自立した 青年を育成する

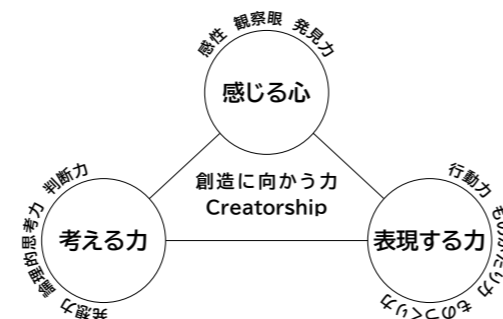
この理念のもとに、特色ある教育活動を通して、一人ひとりの能力・適性を伸ばし、自己実現を図れるよう以下のことを目標とする。

- ・多様なものごとに触れ美しさや本質を見出す「感じる心」を豊かにする
- ・主体的に取り組み広い視野で柔軟に深く思考できる「考える力」を伸ばす
- ・幅広い美術の知識や技能を学び自分の思いや考えを形にする「表現する力」を高める

学校教育目標

育成する資質・能力

教育目標を達成するために、生徒たちに対して右図のような資質・能力を育成していく。



ご挨拶

美術工芸の専門高校である本校は、明治13年(1880)京都御苑内に画学校として開校以来、美術学校、美術工芸学校、日吉ヶ丘高校美術課程・美術工芸課程、銅駝美術工芸高校を経て、令和5年4月に現校名で移転開校いたしました。

本校の教育理念は「自由快活な校風のもとで 多様性を尊重し共に高め合い 美の精神をもって 広く社会に貢献できる 高い理想をもった創造性豊かな自立した 青年を育成する」です。本校には他校にない強みがあります。多様なものごとに触れ美しさや本質を見出し、主体的に取り組み広い視野で柔軟に深く思考し、幅広い美術の知識や技能を学び自分の思いや考えを形にすることができます。

「その“わくわく”が、ありたい未来をソウゾウする」をスクールメッセージとして掲げ、「美」を通して様々な学びに横断的に取り組む「BIKO steAm」を意識した教育活動によって多様な学びへの意欲・関心を高め、ソウゾウ(想像・創造)に向かう力を育成しています。

あなたの思い描くイメージをカタチあるものにクリエイトする。想像から創造へ。「無」から「有」を創り出すことができる本校(美工)で学んでみませんか。美工での様々な学びは、みなさんの感性を磨く大きな機会となるはずです。美工で“ありたい未来”を創り出しましょう。



校長 大窪 英行

学校沿革

140年を超える歴史を持つ「美工」。文化と伝統を大切にしてきた京都であるからこそ、日本でも先駆けて誕生し、現在まで市民をはじめ多くの方に温かく支えられてきました。

明治13年 1880年 7月1日、京都御苑内准后御殿を仮校舎として京都府画学校開校、太政大臣三条実美公「日本最初画学校」と命名。東宗(大和絵)・西宗(油絵)・南宗(文人画)・北宗(狩野、雪舟派)の4科を設置、修行年限3年で発足。

明治22年 1889年 京都市に移管、京都市画学校となる。

明治24年 1891年 京都市美術学校と改称。絵画科・工芸図案科を設置。

明治27年 1894年 京都市美術工芸学校と改称。彫刻科を設置。

明治28年 1895年 漆工科を設置。

明治34年 1901年 京都市立美術工芸学校と改称。絵画・図案・彫刻・描金の4科となり、修業年限を4年とする。

明治44年 1911年 京都市立絵画専門学校(現京都市立芸術大学美術学部)を併設。

大正15年 1925年 東山区今熊野日吉町の新校舎に絵画・図案・彫刻・漆工の4科で移転。

昭和23年 1948年 京都市立美術高等学校と改称。建築科を洛陽高等学校へ移管、絵画科の中に西洋画科を設置。

昭和24年 1949年 京都市立日吉ヶ丘高等学校美術課程となる。日本画・西洋画・図案・彫刻・漆工の5科を設置。

昭和26年 1951年 陶芸科を設置、6科となる。

昭和27年 1952年 漆工科を漆芸科と改称、服飾科を設置、7科となる。

昭和55年 1980年 京都市立銅駝美術工芸高等学校を設置、旧銅駝中学校跡地に移転。実習棟竣工。染織科を設置し8科、定員110名となる。

平成9年 1997年 4科で科名変更、洋画科・デザイン科・ファッションアート科・テキスタイルアート科となる。

平成16年 2004年 8科を統合して美術工芸科とし、各科は2年次より選択する8専攻となる。

令和5年 2023年 京都市立美術工芸高等学校と改称。京都駅東部地区に新築移転。

本校出身の文化勲章受賞者 竹内栖鳳・西山翠嶂・上村松園・上村松篁・堂本印象・福田平八郎・加山又造・草間彌生



美工生がインタビュー

建築家 乾久美子さんに聞く「美術を志す」ということ

乾久美子

東京藝術大学美術学部建築科卒業 / イェール大学大学院建築学部修了 / 青木淳建築計画事務所勤務 / 乾久美子建築設計事務所設立(2000年) / 横浜国立大学都市イノベーション学府・研究院 建築都市デザインコース(Y-GSA)教授

「空間認識」と思考の力
美術で身につく

Q.「美術を学ぶこと」は、社会にとってどんな意味があると思いますか。

A.建築の設計に携わる人には美術系の出身者だけではなく理工学系の出身者もいます。その中でやっぱり両者の思考回路にはちょっと違いを感じています。例えばデッサンを学んだ私たちは、空間を把握することであったり、視覚的に快適であることとは何なのかとか、あるいは世の中の人とはどのように物事を捉えているかというのを思考する力をデッサンを通して獲得していると思います。私が建築設計をする時って

というのは、頭の中で建築物を三次元的に再現しながら考えるんです。美術を学んだ人は頭の中で物を再現する力を身につけていて、それができかどうかで出来上がるものは全然違ってきます。

また、美術の基本を学ぶこと、補色とか、割とそういうものの組み合わせで世界は出来ています。全てのものには形があり色がありますから、それらが一体何であるのかを把握することは、美術を学んだからこそできることだと思います。

評価の中で育つ「見る目」と精神力

ころもあるし、「この点においてはあの人の方が全然いいじゃないか」みたいなことが一目見て分かってしまうのが美術ですよね。その評価の中で悔しいなと思って、やっぱり努力して次はこうしよう、やってみようって思いますよね。

私はそれが美術を専門に学ぶ面白さだと思いますし、自分が次やることをどんどん見つけられる環境で、他者の作品を見る目を育て、自分で自分を強くするということが重要だと思います。

ものづくりで大切な「他者のことを考える視点」

Q.美術や建築などのものづくりに関わる進路を考えている中高校生に大切にしてほしい視点はありますか。

A.工業デザインや建築、絵画や彫刻のようなファインアートも、美術というジャンルにおいてもものを作っていくってことは、やっぱり「人のことを考える」っていうことが大切だと思います。



Q.多様性が重視されている社会の中で、「美術を学ぶこと」は他者や世界と関わる上でどんな力を育ててくれますか。また、どこからがあまりよくないとか、人に迷惑をかけるダメなラインっていうのがすごく曖昧のように感じるのですが、そういうことをどうやって線引きしていくのがいいと考えますか。

A.皆さんの年齢にとって、まだ多様性という言葉はリアリティがないかと思います。しかし、社会の厳しい場面に出合ったときに初めて多様性っていうのがないとその問題はちょっと解けないんじゃないかって思う瞬間はあるのかなと思います。多様性と美術について考えるときに

ます。人にどう思ってもらうのか、人にどう気持ちよく感じてもらえるのかっていうことを一生懸命考えている分野だと思います。そしてこれは人間として大切なことをやっていると思うんですね。加えてとてもおもしろいことです。例えば、海外ではダブルメジャーと言って、大学で異なる領域を学んで複数の学位を取ることが可能です。日本でもこの制度が広がればいいなと思っているのですが、美術を入口にして他の分野へ視野を広げていくこともできるし、他領域を学ぼうとするとき、美術について知っているということはとても強いものになると思います。



「どこまでやってることが許されるのか」と疑問に思われていることに対しては、少なくともやっぱり目の前にいる人を尊重するっていうことは絶対やらなきゃいけないと思いますよね。

その過程で多様性を認めるっていうことは、ある程度ちょっと我慢するっていうことも必要になってくる。一方で“なんでも良い”とか言われちゃって全部自分で考えろってなることは結構つらいと思います。難しい問題ですよね。でも、目の前の人のその背景を想像する、見えないものを見ようとする態度は美術が育てられる力のひとつだと思います。

多様性の社会で他者を尊重する想像力

◆インタビューを終えて

様々な質問に対して乾さんが一つの答えを断定するのではなく多角的な方向から新しい視点を示してくださったことが印象に残り、自分にはなかった新しい視点を獲得することができました。また「美術は人の心とモノを繋ぐ役割」という言葉や「美術は物事を知る良い入り口」という言葉にとても共感しました。インタビューを終えて、自分の好きなことを深めることの大切さ、お互いを尊重し合うことの大切さを改めて感じた時間になりました。

3年生 鈴木 いつきさん 辻本 楓さん
2年生 濱田 紡さん 山本 咲環子さん





拝啓、未来の後輩へ。



大好きなイルカの調教師、美術を用いてリハビリを行う作業療法士…美工生が望む未来は千差万別。本校を卒業し、様々な分野で活躍する先輩より、在学中に何を学び何を経験したのか、これから美工で学んでみたいと考える後輩たちに向けてのメッセージです。



インタビュー全文と、その他の卒業生からのメッセージはこちら



山口情報芸術センタースタッフ (照明デザイン・オペレーション)

平成11年度卒業 日本画専攻 高原 文江

私は子どものころから色を表現することが好きで、美工に入学し日本画を学びました。制作に向き合う日々の中で、技術だけでなく「ものを見る・考える・続ける」力を養う事ができました。文化祭で集団制作の面白さに出会い、「一人でつくること」とは異なる表現の可能性と、誰かに届く喜びを知ったことが、現在の仕事の原点となっています。大学で舞台や照明を学び、フリーランスの照明デザイナーとして経験を重ねた後、現在はアートセンターで展覧会や舞台公演の照明に加え、作品のフィールドワークやバイオテクノロジーを扱うラボの運営にも携わっています。分野が広がっても、丁寧に観察し、考え、形にする姿勢は変わらず、その土台は高校時代に育まれたものだと感じています。



写真提供:山口情報芸術センター[YCAM] 左上写真 撮影:Gottingham
下写真 撮影:山中慎太郎Qsyum! 展示風景「Dance Floor as Study Room -したたかにたゆたう」山口情報芸術センター[YCAM]、山口、2024年



金工職人

平成19年度卒業 彫刻専攻 中根 嶺

幼い頃からものを作ることが好きで、美術工芸高校では彫刻を専攻しました。入学前はデザイン専攻を考えていましたが、それぞれの専攻を体験する中で、土や木、石膏、樹脂、石など、彫刻で扱う素材に強く興味をひかれました。道具の使い方や素材の特性を学ぶ中で、技術を身につける楽しさや、素材によって表現が変わる面白さを知りました。また、美術とは何か、美しさや評価とは何か、ということに向き合えたことが、とても大きな学びとなりました。高校卒業後は進学せず、働きながら生活する中で、自分に合ったものづくりの形を探しました。もう一度通えるならと思うほど、美工で過ごした時間は今も自分の礎になっています。

川島織物セルコン

平成31年度卒業 染織専攻 木村 華子

好きなことに熱中し、夢中になって制作していた先輩の姿を見て、美工の環境に強く惹かれ、志望校に決めました。デッサンの授業では、対象をじっくり観察し、その本質を捉える力を身につけました。この観察力は、現在の仕事で糸を選び、デザインの細部まで意識して配色を行う上での基礎となっています。また、同じ志をもつ仲間と作品を互いに鑑賞し合い、それぞれの考えや価値観を率直に交わし合った経験は、物事を多角的に捉える力につながりました。高校卒業後は、職人の方々との制作を通して、仕事としてものづくりに向き合う姿勢を学びました。私は自分の「好き」を追求し、自分の「やりたいこと」に出会えました。



グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)

- ◆柔軟に粘り強く挑戦し続けられる心を育み、作品制作や言語表現を中心とした多様な表現活動や他者との関わりの中で、新たな自分や価値を創造していく意欲と能力を有する。
- ◆美術領域の専門性や汎用的な知識・技能を活用し、将来、文化芸術の創造・発展に寄与し、世界と対話的に関わっていく態度と能力を有する。

データで見る進路

国公立4年制大学合格者数

大学名	令和6年3月	令和7年3月	令和8年3月
京都市立芸術大学	17(6)	14(3)	12(5)
金沢美術工芸大学	3(1)	5(2)	6(2)
富山大学	2(2)	2(1)	1
静岡文化芸術大学	1		
愛知県立芸術大学	2	2(1)	3
京都教育大学	1	2	
広島市立大学	3(2)	1(1)	4(1)
沖縄県立芸術大学		3	3
静岡大学		1	
東京芸術大学			1(1)
芸術文化観光専門職大学			1
北海道教育大学 岩見沢校			1
国公立大学合計	29(11)	30(8)	32(9)

ほとんどの生徒は美術系上級学校を志望しますが、看護系や教育系、文学・歴史系など、美術系以外の学部へと進学している生徒もいます。この方面への進学については教育課程上、生徒自身で努力し学ぶ必要があり、進む道を定めた美工生の行動力の強さを感じるところです。

私立4年制大学合格者数

大学名	令和6年3月	令和7年3月	令和8年3月
武蔵野美術大学	2(1)	1	2
多摩美術大学	2	1	1
成安造形大学	12(4)	12(3)	18(2)
京都精華大学	18(3)	21(4)	21(2)
京都芸術大学 (旧 京都造形芸術大学)	9	11	2(2)
京都美術工芸大学	4(1)	2(1)	1
嵯峨美術大学	10(3)	12(1)	24(8)
京都先端科学大学		2	
大谷大学	1	1	
大阪芸術大学	2	3	2(1)
大阪成蹊大学			2
立命館大学	3(1)	1	1
東京工芸大学		1	
東京造形大学		1(1)	
龍谷大学		3	
京都文教大学	2(2)		
京都産業大学	1		
甲南大学	1		
近畿大学			1
女子美術大学			2(2)
大手前大学			1(1)
札幌大谷大学			1
京都外国語大学			2
私立大学合計	67(15)	72(10)	81(18)

自分の人生をデザインする力を育む キャリアプロデュース CAREER PRODUCE

美工では、生徒が「美の精神をもって広く社会に貢献できる」ようになるために、キャリア教育に力を入れています。美工生が好きな「美術」を社会でどのように活かしていくのか、そのためには何を学び、どのような道に進めば良いのか。3年間の中で、生徒自身が考え、自分でキャリアをデザインすることのできる力を育むための仕組み、それが「CAREER PRODUCE」です。

自分自身を知り、目標を見つける



ポートフォリオ制作

ポートフォリオ制作を通して3年間のキャリア形成の流れを見える化し、PDCAサイクルの確認を行い、蓄積しています。美工生の強みを活かして、描いたり、撮影したり、作ったりしたものをiPadに記録します。

世界や社会のつながりの中で、自分を育てる



海外での学習・交流

代表生徒の海外派遣や、大学と連携した留学生との交流を通して国際的な視野を育てています。さらに留学プログラムに参加する生徒も多く、報告会の実施などにより、学校全体でグローバルな意識の向上を図っています。



地域や社会との連携

美術専門高校の特性や京都の強みを活かし地域や学校外の方々との連携による取り組みを多数行っています。あらゆる課題について自分ごととして学ぶ場となるように、生徒も企画運営に参加します。



変わりゆく技術を学ぶ

インターネット上の情報を鵜呑みにせず、自ら判断する力を重視し、ICT機器や生成AIを活用して情報活用能力を育成します。リスクも踏まえつつ、適切な活用と将来に活かす力を養います。

「美の視点」が全ての学びをつなぐ ビコウ スチーム BIKO steAm

社会へと発信していくためには、その基盤として十分な知識や技術が必要となります。BIKO steAmは、「全ての学びを美術[ART]でつなぐ」をキーワードに、各教科等の連携を深めることで、インプットの質を高め感性を刺激します。生徒の思考を点から線、線から面へと発展させることで、多様でイノベティブな表現の可能性を生み出すことを目指します。

「美の視点」が全ての学びをつなぐ



実習II 洋画専攻 美術と社会について考える

遠近法について、その生まれた背景を学びます。単なる描き方としてではなく、その時代の人々の考え方や社会の様子と結びつけてとらえ、今の時代に美術が持つ役割について考えます。



生物基礎 見えない大きさを測ろう

顕微鏡で小さなものを観察し、接眼ミクロメーターを使い計算で大きさを求めます。正しい測り方と数式の考え方は、感覚を根拠あるものへと高めるために欠かせない力です。



現代の国語 「美しさ」について

異なる立場の人が語った「美しさ」について読み取り、短文にまとめます。自分で要約することで筆者の意見が明確になり、読み比べることができるようになることをめざしました。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

- ◆ 将来の予測困難な社会において、「美」の持つ力、役割、可能性を深く幅広く学び、生徒の持つ創造への意欲の高揚につながる取組を実践する。
- ◆ 京都の強みを活かした学校内外の様々なつながりの中での協働的な学びを実践する。
- ◆ 表現活動の基盤となる幅広い教養や他者に伝える力を培い、創造的な発想力や思考力、判断力を養うため、教科・科目や専攻の境界を越えた横断的な学びを実践する。
- ◆ 個人の個性と可能性に丁寧に寄り添い、自己目標の実現に向けた生徒の主体的な学びを支援する。



1年間の学びを振り返る 美工1・2年生 成果発表会

2027年3月12日(金)～14日(日)開催予定



美工での学びの集大成 美工作品展

2026年10月7日(水)～11日(日)開催予定



学びの成果を社会へつなぐ

美工作品展は、3年間の学びの集大成として、各専攻での専門的な実習や学びの成果を社会に向けて発信する場です。全学年で対話型鑑賞を取り入れ、作品を通して他者と考えを交わし、見方や感じ方を深める学びも大切にしています。また、年度末の成果発表会では、1年間の学びを振り返り、作品と言葉の両面から成長を共有します。これらを通して、学びを社会とつなげ、次の表現へと発展させていきます。

総合的な探究の時間

1年生における総合的な探究の時間では、美工作品展の出品作品を題材に、論理的・批判的思考をもとに批評文を作成します。対話やグループ活動を通して多様な視点に触れ、考えを言葉で明確にし他者に伝える力を養います。作品の見た目だけでなく、作者・作品・社会の関係性を分析することで、「好き・嫌い」ととまらない自分なりの価値軸を育てます。また2年生の授業では「展覧会をつくる」をテーマに、美工作品展のあり方を生徒自身が検討しました。作品をどのように見せ、何を伝えるのかを考える中で、表現と社会との関係を捉え直し、学びをより広い視野へとつなげています。



3年間の流れ

基礎から演習へ / コース選択

普通教科でも美術教科でも、まずは基礎をしっかりと学んだ上で、発展・応用するための演習を行っています。2年次の終わりには自身の進路実現に向け、大学入学共通テストを用いて進学を目指すアートパイオニアコースか、より幅広い実技力を伸ばしていくアートフロンティアコースかを選択します。

1年	前期	現代の国語(2)	言語文化(3)	公共(2)	数学I(3)	地学基礎(1)	化学基礎(2)	体育(2)	保健(1)	英語コミュニケーション(3)	論理・表現I(2)	情報I(2)	造形表現(4)*1	表現基礎I(4)*3	探究I(2)	HR(1)
	後期												造形表現(6)*1	表現基礎I(2)*3		

表現基礎I

素描・色彩・立体などの基礎的な課題に取り組み、美術に関する知識を身につけ、感性・思考力・表現力を伸ばします。取組全般において、自ら考え、主体的・能動的に表現活動に向かうことや、創作を楽しみ、大切にすることを育むことを目指しています。



2年	前期	文学国語(2)	古典探究(2)	歴史総合(2)	倫理(2)	数学A(2)	地学基礎(1)	生物基礎(2)	体育(2)	保健(1)	英語コミュニケーション(4)	家庭基礎(2)	実習I(6)*1,2	表現基礎II(4)*4	探究II(1)	HR(1)
	後期															

表現基礎II

表現基礎Iから発展させ、多様な表現や柔軟な発想力を培います。計画を立てたり、振り返る時間も重視し、プレゼンテーションやレポートを用いて自分の意図を言葉で伝えられる力も養います。「進路探索期間」には進路志望先に合わせた目標を設け、3年次に向けステップアップする課題に取り組みます。



3年	前期	論理国語(2)	古典探究(2)	地理総合(2)	体育(3)	英語コミュニケーションIII(4)	英語II(8)*1,2	表現演習I(4)	HR(1)
	後期							表現演習II(4)	

アートパイオニアコース

前期	論理国語(2)	古典探究(2)	地理総合(2)	体育(3)	英語コミュニケーションIII(4)	英語II(8)*1,2	表現演習I(4)	HR(1)
後期							表現演習II(4)	

表現演習I / II*1

進学志望先別に生徒各自の進路に応じた課題を学習します。「表現基礎I・II」で培った基礎実技力をもとに、主体的かつ能動的に学ぶ態度を身につけ、大学入試の実技試験に対応できる実技力や応用力を養い、将来の制作や表現活動へとつながる力を身につけます。

大学入学共通テスト対策演習

共通テストに向けて、必要な科目の演習を選択し受講します。知識・技能を身につけ、それを用いた思考力・判断力・表現力を伸ばすことで、進路目標の実現を目指します。

実習A/B

専攻実習の分野を越えた複数の実習講座から選択します。専門的な素材や技法を用い、その技術や表現の特質を学びます。



前期	論理国語(2)	古典探究(2)	地理総合(2)	体育(3)	英語コミュニケーションIII(4)	英語II(8)*1,2	表現演習I(4)	実習A(4)	探究F(1)	HR(1)
後期							表現演習II(4)	実習B(4)		

アートフロンティアコース

前期	論理国語(2)	古典探究(2)	地理総合(2)	体育(3)	英語コミュニケーションIII(4)	英語II(8)*1,2	表現演習I(4)	実習A(4)	探究F(1)	HR(1)
後期							表現演習II(4)	実習B(4)		

8つの専攻の学び

入学後、8つの専攻分野を体験しながら、1年次の終わりにひとつの専攻を選択し、そこからより深く専門的に学んでいきます。1年間で幅広い分野を学んだ経験は、将来どんな道に進んでも必ず活かされた力となります。

造形表現

2年次からの専攻を選択するための美術専門授業です。入学後、本校に設置している美術・工芸・デザインにわたる8つの専攻分野を、まずは体験的に学習。その後、学んだ分野の中からさらに絞り込んだ分野をより深く学び、1年次の終わりにひとつの専攻を選択します。

各専門分野での実習を通して、見方や考え方、表現方法の違いなどを知り、視野を広げます。



専攻選択

専攻実習I

1年次に決定した専門分野(専攻)を本格的に学んでいきます。各専攻では1年間を通してその分野で必要となる考え方や表現の基本、自ら定めた目標に向けて試行錯誤しながら進む行動力、物事の観察や作品鑑賞の仕方などの基礎力を身につけ、3年次の各専攻での「実習II」の学習に発展させます。



コース選択

専攻実習II

各専攻で2年次に学んだ思考力や表現力をより高めながらさらに追究することで、表現したい題材や表現方法を主体的に見つけ、試行錯誤を繰り返しながら制作に取り組みます。自己を見つめ直し探究する制作活動は、大きな成長につながります。

専攻実習は、将来の進むべき道の指針となり、生涯にわたって何事にも変え難い糧となります。その成果は10月の美工作品展で発表します。



AFコースのみ

専攻実習III

アートフロンティアコースの「実習III」では、各専攻において3年間の学びを踏まえ、自身の関心や主題を深めた作品制作に取り組みます。その成果を発表する後期作品展では、校内の空間を活かした展示を行い、作品と場所との関係性も含めて表現を考えます。制作から展示、鑑賞までを一体として捉えることで、作品をどのように見せ、どのように伝えるかを学びます。



◎掲載のカリキュラム(単位数)は、令和9年度予定です。*1「造形表現」、「実習I」、「実習II」のうち1単位は「美術史」1単位を代替。*2「実習I」、「実習II」のうち1単位は「美術概論」1単位を代替。「実習I」、「実習II」のうち1単位は「鑑賞研究」1単位を代替。

*3「表現基礎I」のうち2単位は「美術I」2単位を代替。*4「表現基礎II」のうち2単位は「素描」2単位を代替。「表現基礎II」のうち2単位は「構成」2単位を代替。*1「表現演習II」はアートパイオニアコースのみ履修。

Japanese Painting

日本画

京都の日本画は写生・写実を重視し、描きたいものと真摯に向き合う「対話」を通して観察する力を高めます。日本画専攻では、対象と向き合いながら主体的に自らを成長させることのできる力の育成を目指しています。



Oil Painting

洋画

描くことを通して自己と世界の間を思考し、絵画の多様な表現や歴史を学び、社会につながる視点を育てます。油彩やパステル、エッチングなどの技法を学び、描くことに自覚的になるとともに、表現する主体としての基礎を作ります。

専攻のポリシー（特に育成を目指す資質・能力）

- 日本の風土を愛し、四季折々の変化を感じる発見力
- 対象を真摯に観察し、的確に表現する観察力とものづくり力

使用する主な画材等

岩絵具 / 水干絵具 / 胡粉 / 墨 / 雲肌麻紙 / 濃紙 / 膠 など

専攻のポリシー（特に育成を目指す資質・能力）

- 常に自問自答しながら、自分なりの答えを導き出すものがたり力
- 絵画表現を様々な角度から捉える視野をもち、現代的な感覚を磨き、自らを成長させようとする行動力

使用する主な画材・技法等

油絵具 / 木炭 / コンテ / パステル / 銅版画（エッチング技法） / アクリル絵具 / 透明水彩絵具 など



専攻インタビュー

日本画専攻
3年生
Arare Fukuda

日本画専攻での作品制作を通して、モチーフと同じ環境に身を置き、五感を使って対象を理解する姿勢を持つようになりました。また、失敗も制作の一部として受け止め、粘り強く向き合えるようになったことが、自身の大きな成長だと感じています。うまくいかない過程も含めて充実した、そんな美術の楽しさを、未来の子供たちに伝えたいです。

写生「スルメ」

1年生の最終課題として取り組んだこの作品では、スルメをモチーフに、質感や色の変化を丁寧に表現することを目指しました。特に匂いの強さが印象的だったので、その感覚が画面から伝わるような表現を目指しました。嗅覚や視覚以外にも触覚の記憶も制作に取り入れ、五感で観察することの基盤となりました。

制作を進める中で、色を重ねることで深みを出す日本画の方法を意識し、乾いた表面の質感や白く浮き出る部分を最後に描くなど、生き物の構造に沿った手順を考えることも学びとなりました。



動物画「鶏」

この作品は、日本画専攻に入って初めて取り組んだ本格的な課題で、動くモチーフを対象に制作しました。クロッキーを重ね、さらに骨格の学習や粘土で足を再現する授業を通して、さまざまな角度から鶏を理解したうえで本制作に入りました。実際に鶏の世話をしながら観察する時間も長く、鳴き声や動き、空気感まで含めて体験として蓄積されたことが、画面づくりに大きく影響しています。瞬間的に見た形を記憶し、頭の中で組み立てながら画面に起こす必要があり、動く対象を描く難しさも強く感じました。観察力と構成力の両方が鍛えられた課題です。



対象を描く難しさも強く感じました。観察力と構成力の両方が鍛えられた課題です。

校内風景

普段過ごしている校内を描くことで、特別な題材がなくても、見方次第で絵になることを学びました。光の入り方や視線の抜けを意識しながら制作する中で、空間を画面として整理する力が身についたと感じています。この制作以降、校内を歩いているときにも、無意識に構図を考えてしまうことがあります。階段の踊り場や窓際など、普段は通り過ぎていた場所に足を止めるようになり、制作で得た視点が日常に定着していると実感しました。



人体

人体の形を捉えるだけでなく、モデルと自分との距離や、その場の空気をどう画面に残すかを意識するようになりました。

線の強弱や色の選び方によって、同じポーズでも印象が変わることを実感しました。この経験から、日常の中でも人との距離や場の雰囲気にも敏感になったと感じています。教室や公共の場での立ち位置、周囲との間隔などを自然と意識するようになり、少し位置を変えて物を見ることが増えました。急いで結論を出すよ



り、一度立ち止まって状況を整理する癖がついたことは、制作以外の場面でも役に立っていると感じています。

Sculpture 彫刻

古代人は祈りの心を込めて岩肌人間や動物などを彫り込みました。彫刻専攻では、立体的な造形力を身につけるのはもちろん、社会の営みの中で人々を支える「美術」とは何かを考える力を身につけます。



専攻のポリシー（特に育成を目指す資質・能力）

- 自分自身と空間、社会との関係性を深く見つけ、考える力
- 造形の魅力を感じ取り、自ら探究していく感性と行動力

使用する主な素材・機材等

粘土 / 木 / 石膏 / 水性樹脂（ジェスモナイト） / ノミ / ノコギリ / 木づち / 土練機 / シュロ縄 / ヘラ など



専攻インタビュー

彫刻専攻
令和7年度卒業生
Koto Sakamoto

彫刻専攻に入り、最も大きく変化したのは素材との向き合い方です。これまでの制作では、画材を「表現のための道具」として使う意識が強く、自分が主で素材が従という主従関係の中で制作していました。しかし彫刻では、素材に触れるたびに、素材そのものの性質や重さ、手触りに影響を受け続け、それに応答するように形を探していくようになりました。

木彫

当時ハマっていた「源氏物語」から着想を経て、着物を着た女性の後ろ姿をイメージして彫り進めました。角度によって印象が変わる曲線を意識し、着物の流れや髪の動きを木目に重ねるようにしています。木を抱えながらの作業だったので、これまでの手や腕だけで進めていた制作とは異なり、身体全体で素材と向き合う感覚がとても新鮮でした。

彫刻室には、楠の木の匂いと、のみを打つ大きな音が常に響いており、会話ができないほどの音の中で、同じ空間にいる仲間の気配や作業のリズムを感じながら制作をしていました。彫刻ならではの雰囲気は今でも印象に残っています。



自由課題

きっかけは、彫刻室にポツンと置かれていた素材を見たとき。下地などで使われるものですが、私は美しさを感じ、「この素材を使って作品を作りたい！」と衝動的に先生に相談しました。素材に寄り添うように形態を探していき、手を動かしながらで突発的に生まれる発見を逃さないように制作をしました。

私は、自分の中にある「美の基準」は、他者から発せられるその人の「美の基準」と出会うことで揺さぶられ、かたちづくられていくものだと思います。この作品では、鑑賞した人それぞれが、自身の中にある感覚や価値観に気づききっかけになればいいな、と思い制作しました。



Lacquer Art 漆芸

漆芸は、縄文時代から続く日本を象徴する工芸分野。漆芸専攻では色漆や金・銀粉、貝等の素材を使った伝統工芸としての技術や知識の習得を通して、未来へ漆芸を繋げると共に、生徒の豊かな感性を伸ばしています。

専攻のポリシー（特に育成を目指す資質・能力）

- 伝統を継承する中で革新を求め、進化を探究する行動力
- 社会との関係を見つめ、新しい工芸の価値観を構築する発想力

使用する主な素材・技法等

漆 / 金粉 / 銀粉 / 樹脂 / 螺鈿 / サフェイサー / エアブラシ / デジタル機器（3Dプリンター等） / 材木 / 蒔絵 など



専攻インタビュー

漆芸専攻
3年生
Taichi Takahashi

漆芸は工程が多く、完成まで時間がかかる素材でもあります。色の計画、材料の準備、乾燥の時間、磨きの工程など見通しながら進める中で、計画性や根気強さが鍛えられました。気を抜かず最後までやり切る力と、自分の表現を丁寧に積み上げていく姿勢が身についたと感じています。

研ぎ出しパネル・ユリ

この作品は、1年次に蒔絵で制作した構図をもとにシルクスクリーンで線画を写し、その上から色漆を重ねていく方法で制作しました。制作の中で意識したのは、線の境界を崩さずに塗り分けることや、完成時の色味を想定して計画的に色を作ること。漆は乾燥前後で色の印象が変わることもあり、予測しながら工程を進める必要がありました。この制作を通して、先を見通し計画を持って進める力や、慎重に判断しながら作業する姿勢が大事なのだと気づきました。



カップとソーサー・カトラリー

私の将来の夢は、車のカスタマイズをするメカニックです。そのぐらい昔から好きだった車を題材に、部品の形をモチーフにしたカップ、ソーサー、カトラリーのセットを制作しました。3Dアプリで形状を設計し、出力した後に表面を滑らかになるまで研磨し、漆と金属粉で仕上げています。金属の質感を目標に、アルミ粉や顔料の配合を何度も試しながら表現を探っていきました。漆芸の技法はたくさんあるので、自分の表現したいイメージを明確に持つ必要があり、そのイメージに向かって何度もチャレンジする力が付いたと思います。



Ceramic Art

陶芸

陶芸専攻では、ロクロ・手びねり、絵付けなどの装飾実習、釉薬・焼成実習など、生活を豊かに彩る食器から大型の造形作品まで幅広い制作を通して、粘り強く物事に取り組み続けることのできる力を育みます。



専攻のポリシー（特に育成を目指す資質・能力）

- 自分が立てたゴールへ試行錯誤をしながら進める行動力
- 素材の性質を理解し、焼き物特有の美を探るものづくり力

使用する主な素材・機材等

電動ロクロ / 信楽土 / 各種釉薬 / 上絵具 / 下絵具 / 焼成窯 / スラブローラー など



専攻インタビュー

陶芸専攻
3年生
Akane Tanaka

陶芸専攻での実習を通して、作品に対する責任感が大きく変わりました。土は乾燥や湿気で状態が常に変わるため、いきものを育てるように毎日様子を見て管理をしています。また、陶芸は焼成のタイミングも含めて計画的に進めなければ完成しないため、期限から逆算して作業を組み立てるような、スケジュール管理の習慣がつかしました。

マグカップ

同じ形・同じ模様をマグカップを複数制作する課題で、初めて本格的にろくろ成形に取り組んだ作品です。手の力のかけ方や指の動きによって形が大きく変化するため、自分の癖や感覚を知る機会となりました。モチーフには、家族が育てているニンニクとその花を取り入れています。家庭で使われることを想定し、形や持ち手の使いやすさも考え、生活と結びついた器のあり方を意識するきっかけになりました。また、限られた期間の中で複数の作品を完成させる必要があったため、作業時間をタイマーで測りながら時間単位で計画を立て、効率よく進めることを意識しました。



照明

キノコをモチーフとし、光が灯ったときに現れる柔らかな雰囲気と少し神秘的な印象の両方を表現しています。照明の制作では、形や厚み・構造に多くの制限があり、そのためさらに土の状態を細かく管理しなければなりません。釉薬の吹き付けや焼成の過程ではうまくいかないこともありました。「埃や手の油がついたせいかな」「釉薬の特性だったのかな」などその原因を分析し、次の制作では同じ失敗をしないよう心掛け、制作することができました。

陶芸を学ぶようになってから、店に並ぶ器や照明の作り方にも自然と目が向くようになり、日常の中で工芸品を見る視点が変化したことも、この制作を通して得た大きな収穫だと思います。



Dyeing and Weaving

染織

染料で布に色彩豊かな絵柄を表現する「染め」と、様々な質感を持つ糸を組み合わせ布そのものをつくる「織り」を学びます。手仕事を通して伝統的な染織の技法、繊維や染料の知識を学びながら、深く思考し造形する力を育てます。

専攻のポリシー（特に育成を目指す資質・能力）

- 多様な工程の全体像を把握し、計画的・主体的に取り組む行動力
- テーマや条件を正確に理解し、独自のアイデアを生み出す発想力

使用する主な素材・技法等

綿 / 絹 / 羊毛 / 化学繊維 / 化学染料 / 植物染料 / ろうけつ染 / 型染 / 捺染 / 絞染 / 藍染 / シルクスクリーン / 綴織 / 平織 など



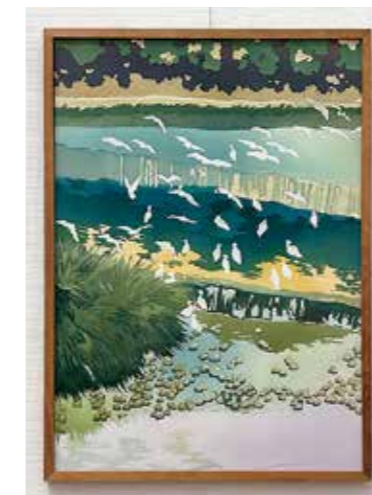
専攻インタビュー

染織専攻
令和7年度卒業生
Toko Sasaki

染織専攻では、素材と色に深く向き合うことができました。また表現の幅が広いので、与えられたテーマに対して自分自身の経験や記憶・感情を重ねて、構成や素材をどう扱うかを考える力が身についたと感じています。すべての課題で色を扱うため、染料を一から調合し、重ねる順番や分量を考える中で、色彩感覚も大きく養われました。

鴨川

鴨川で印象に残った風景を、ろうけつ染めで制作した作品です。ろうけつ染めは、ろうで伏せた部分には色が染み込まないという特徴を持ちます。その特性から、布の「白」をどのように使うかが重要だと考えました。風景の中で、最も印象に残ったのはサギの存在です。光を反射し、周囲から浮かび上がるようなサギを、影をつけずに表現することで、まわりの風景との差を出し存在感を際立たせました。一度ろうで伏せるとやり直しができないので、失敗の許されない緊張感の中で、落ち着いて作業を進める力が培われた作品です。



自由課題

本作「悠」は、友人と鴨川で過ごした時間から着想を得た、タペストリーの作品です。友人と川で寝転がり空を見上げていたとき、言葉がなくてもつながっているような静かな時間を作品として残したいと思い、取り組みました。手前には太い糸を、奥には細い糸を使い、作品の中で遠近が出るようにしています。特に友人のチャームポイントの類は、7~8色段階をつけ



て染めた糸の中から最適なものを選び、自然なグラデーションになるよう慎重に構成しました。工程の計画を立てる力がつき、最後までコンセプトをぶらさずに制作できたことは大きな経験となりました。

Design デザイン

イラストレーションや写真、アニメーション、実写映像、立体造形といった様々な表現手法を用いて課題を解決する「デザイン思考」の学びを通して、社会をより良く変革する力を身につけます。



Fashion ファッション アート

ファッションアート専攻では、衣服制作のための縫製や製図法はもちろん、一般的な服地以外の素材研究から空間演出まで、様々な領域に自身の考えを展開・表現する力を養っています。

専攻のポリシー(特に育成を目指す資質・能力)

- 仮説を立案し、試行錯誤しながら物事を考える論理的思考力
- スケジュール管理や交渉等、必要な段取りを調整する行動力

使用する主な画材・機材等

iMac / Adobe Illustrator, Photoshop, Premiere, After Effects / 3Dプリンター / デジタルミラーレスカメラ / 大判プリンター など

専攻のポリシー(特に育成を目指す資質・能力)

- 学んだ基礎知識・技術を用い、テーマに沿って表現するものづくり力
- 課題に対して自分なりに考え、試行錯誤し解決を目指す行動力

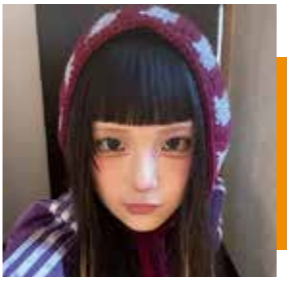
使用する主な素材・機材等

縫製用具 / 各種布 / 染料 / フェルト / ロックミシン / 刺繍ミシン / アイロン / シルクスクリーン機材 / 大判プリンター など



専攻インタビュー
**デザイン専攻
令和7年度卒業生
Mine Takiyama**

立体造形など、様々な表現方法を学ぶ中で、自分の作品をより魅力的に発信するには？と掘り下げていく力、そしてそれを行動に移す力が身に付きました。見る人の立場になって考え、それに対しての効果的なアプローチを模索するようになったと感じています。将来はたくさんの人に喜びや楽しさを届けられるデザイナーになりたいです。



専攻インタビュー
**ファッションアート専攻
令和7年度卒業生
Nano Yoshida**

ファッションアート専攻での学びを通して、目標に向かってやりきる力が身につきました。自分が目指す完成形を常にはっきりと持ち、そこへ到達するための試行錯誤を何度も重ねてきました。作品制作を繰り返す中で縫製の技術も自然と身につく、疑問を持たば自主的に調べ、考え、行動するという姿勢も育ちました。

自由課題

校外で展示をした、「わたしのモノがたり展」。私は幼い頃に宝物を入れていた巾着をモチーフに、子どもの頃の自分から現在の自分に至るまでの「ものがたり」を表現しました。鑑賞者が自身の記憶と重ね合わせ、思い出の中に入り込むような感覚と温かさを感じてほしいという思いを込めて制作しました。



自由課題

初めて一から自分で生み出したキャラクター作品です。休日に絵を描いていた際、突然頭の中にイメージが浮かび、そのまま形になりました。この「しゃもー」は子持ちヤリイカの妖精という設定で、黄色で光沢のある肌、大きな目、前に出た歯など、自分自身の特徴も取り入れながら造形していった結果、ユニークな見た目のキャラクターとなりました。まだ生態や物語の設定は発展途中ですが、今後さらに広がっていく予定です。老若男女に親しまれる存在へと成長していくことをイメージしながら制作しました。



自由課題

外的世界があるから悩み、葛藤し、傷つく。しかし同時に、外的世界があるからこそ、自分は成長し、光を放つ。その削られるのに輝いてしまうような、どうしようもないもどかしさを、今の年齢でしか作れない形として残したいと思い、この作品を制作しました。何度も挑戦し、どこで失敗したかを確かめながら、自分が納得するまで何時間もかけて制作することで、自主性が身についたと感じています。縫製の基礎のみならず、素材研究や立体制作など2年次で学んだことを



全力で活かすことができました。

フェルト作品

フェルトを縮絨して仮面を作る課題。今回は「民族のための装飾」をテーマに、様々な民族や装飾について調べました。どんな意味を込めて作られたのか、伝承されていたのか。ものの造形にはそれぞれちゃんと意味があると知り、とても興味を持ちました。この作品は、空想の民族「接族」を設定して制作した作品です。パーツはすべて取り外し可能で、他者とパーツ



を交換することで形が変化し、つながりを重ねることによって一つの特別な作品が完成していく仕組みになっています。素材の特徴を活かすことも学び、異素材を組み合わせたときにどう魅せるべきかを考えるようになりました。

美工の1年間 年間行事

美工ならではのイベントで、青春を自分たちの手で彩ろう！

4

入学式・前期始業式
 新入生歓迎会
 スタートアップ研修
 進路オリエンテーション
 人権学習(1年生)

10

前期終業式
 秋休み
 美工作品展
 後期始業式
 美術研修旅行
 (R8年度より2年生)
 団体鑑賞
 健康学習(3年生)

5

進路ガイダンス
 人権学習(3年生)

6

前期中間考査
 文化祭

11

人権学習(2年生)
 体育祭
 進路講演会

12

後期中間考査
 冬休み
 冬季補習

7

夏休み
 夏季補習
 健康学習(1年生)

1

学年末考査(3年生)
 後期作品展(3年生 AFコース)

8

インターンシップ

2

卒業式
 学年末考査(1・2年生)
 春休み
 1・2年生成果発表会

9

前期末考査
 健康学習(2年生)

*令和8年4月時点予定

入学希望の中学生のみなさんへ

アドミッション・ポリシー(入学者の受入れに関する方針)

- ◆美術工芸に対する興味・関心と基礎的な資質・能力を有し、その資質・能力を伸ばそうとする生徒
- ◆自ら課題を見出し、他者と協働しながら粘り強く解決しようとする生徒
- ◆将来、本校での学習を通して培った力を発揮し、様々な分野で社会に関わろうとする生徒

入学者選抜について[令和8年度3月時点予定]

*令和9年度入学者選抜については、9月に公表予定です。

選抜方式は、京都市・乙訓地域公立高校「前期選抜(独自枠)」です。検査内容は実技検査と学力検査、面接で、これに中学校からの報告書を加えて選抜し、定員の100%を決定します。

実技検査:鉛筆デッサン(165点)

- ◆デッサンの練習のポイント
 基本的な色や形、もののおおきさの違ひ、適切な構図により立体感と固有色の表現ができるか。

過去4年間の出題

鉛筆デッサン 120分/四つ切り画用紙

R5年度	ウェットティッシュケース・たわし
R6年度	ラップケース・赤玉ねぎ
R7年度	りんご・食品用紙箱(フタ付)
R8年度	いよかん・プラスチックケース

学力検査:国語・数学・英語・理科・社会 (40点・合計200点)

- ◆入学後、高校での学びを着実に進め、希望する進路目標を実現するためには基礎的な学力が必要です。内容は京都市立高等学校前期選抜の共通学力検査問題です。

学費について

諸経費は各期ごとに納めていただきます。諸経費には、生徒会費、PTA会費、模擬試験費用等が含まれます。1年次の実習関係費は諸費に含まれていますが、2・3年次には各専攻分野ごとに実習費(金額は分野によって異なります)がかかります。また、絵の具などは制作に応じて個人負担です。iPadを活用した授業を行うため、各家庭でiPadを準備いただきます。授業料については「高等学校等就学支援金」など国の制度により、納入が不要となる予定です。また、京都ロータリークラブ奨学金・交通遺児奨学金などの奨学金制度もあります。

	入学金	諸費・会費4月納入	諸費・会費9月納入	美術研修旅行代金	授業料	専攻分野等実習費
1年次	5,650	41,110	13,000	90,000程度	118,800	20,000~40,000
2年次	-	32,750	9,700		118,800	40,000~60,000
3年次	アートフロンティア アートパイオニア	24,650	14,700	-	118,800	50,000~70,000
		40,560	31,480			

*いずれも年間経費(令和7年度時点)であり、変更になる場合があります。*美術研修旅行代金は旅行代理店に直接納入いただけます。

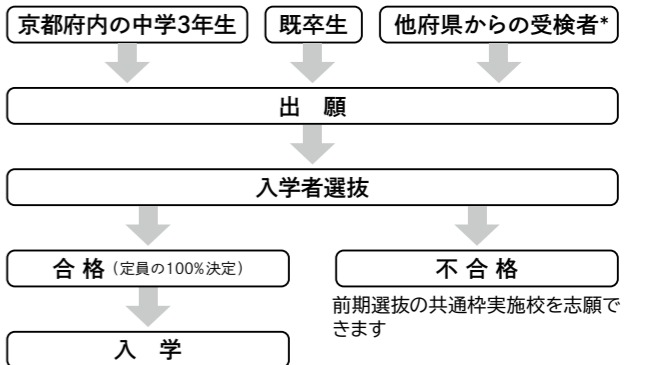
面接(100点)

- ◆「感じる心」「考える力」「表現する力」を育成するために必要な力をはかります。
- ◆自らの考えを整理して述べられるか、自身の体験などを踏まえて言語を使って表現できるかをはかります。
- ◆他者の発言に耳を傾け、自分の考えを述べる形式で検査を行います。

中学校からの報告書(135点)

- ◆中学校3年間の報告書が加わります。

入学者選抜の流れ



*他府県から志願できるかどうかについては、京都市教育委員会までお問い合わせ下さい。

よくあるQ&Aを、本校ホームページに掲載しています。ご覧ください。



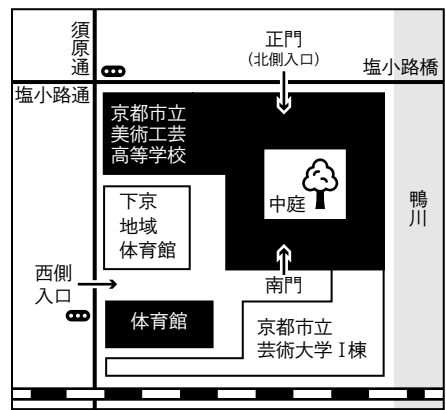
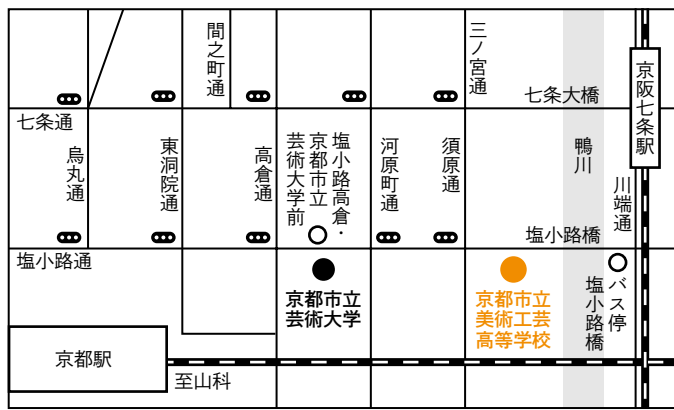
- 美工は芸術家になるための勉強をするところですか？ 登校時の服装は自由ですか？
 アルバイトはできますか？ 部活動はありますか？ 自転車通学は可能ですか？
 実技検査の対策のために、画塾に通う必要はありますか？ 大学への推薦はありますか？

校歌

一、鴨川の瀬音さやけきバルコニー
 明日への夢を語り合おう
 我らが美工に満ちるのは
 色とりどりの花開く
 自由な息吹の伸びやかさ
 自ら選んだこの道を
 夢を描いて歩んでいこう

二、たおやかな峯を東に見上げては
 輝く未来に思いを馳せる
 美工の我らが目指すのは
 明日の世界を切り拓く
 創造力のしなやかさ
 心に決めたこの道を
 夢を抱いて歩んでいこう


Youtubeにて
 動画配信中



〒600-8202 京都府京都市下京区川端町15番地

京都駅から徒歩約15分 / 京阪七条駅から徒歩約10分
 バス停 塩小路橋から徒歩約2分 / バス停 塩小路高倉・京都市立芸術大学前から徒歩約3分

TEL:075-585-4666 FAX:075-341-7006

 京都市立美術工芸高等学校

学校ホームページ

